

平成23年

火災・救急活動の概要

高槻市消防本部

1 火 災

(1) 火災件数と出火率

☆ 火災は12件の減少

平成23年中に高槻市内で発生した火災は89件で、前年の101件と比べ12件の減少となった。

出火率（人口1万人当たりの出火件数）は2.5で、全国平均（平成22年中）3.7と比べ1.2ポイント低い。

(2) 火災種別

☆ 建物火災が半数以上

平成23年中の火災件数のうち建物火災が50件（うち住宅関係の火災が30件）で、全火災の半数以上を占めている。

建物火災	50件（56.2%）
林野火災	3件（3.4%）
車両火災	12件（13.5%）
その他の火災	24件（26.9%）

(3) 焼損面積

☆ 焼損面積は若干の減少

建物火災は前年同様50件であったが、焼損床面積は1,144平方メートルで、前年の1,407平方メートルに比べ263平方メートルの減少となった。

焼損表面積は281平方メートルで、前年の197平方メートルに比べ84平方メートル増加している。

(4) 損害額

☆ 損害額は大幅に減少

平成23年中の損害額は6,173万3千円で、前年の2億2,200万2千円に比べ1億6,026万9千円の減少となった。

1件当たりの損害額は69万4千円で、前年の219万8千円より150万4千円の減少である。

(5) 火災による死傷者

☆ 死者、負傷者共に減少

平成23年中の火災による死者は2人、負傷者は20人で、前年より死者が4人減少、負傷者は5人減少である。

また、負傷者20人のうち、重症者が2人(前年3人)、中等症者が3人(前年6人)、軽症者15人(前年16人)である。

(6) 原因別に見た火災発生状況

☆ 23年連続1位に放火（疑いを含む）

ア 平成23年中の**全火災**（89件）を出火原因別にみると以下のとおりである。

放火（疑い17件を含む）	26件（29.2%）
こんろ（天ぷら油の過熱等）	13件（14.6%）
たばこ	10件（11.2%）
火あそび	5件（5.7%）
電灯・電話等の配線	4件（4.5%）

たき火	4件 (4. 5%)
ストーブ	3件 (3. 4%)
排気管	2件 (2. 3%)
配線器具	2件 (2. 3%)
灯火	1件 (1. 1%)
電気機器	1件 (1. 1%)
電気装置	1件 (1. 1%)
マッチ・ライター	1件 (1. 1%)
火入れ	1件 (1. 1%)
溶断機・切断機	1件 (1. 1%)
衝突の火花	1件 (1. 1%)
不明・調査中	3件 (3. 4%)
その他	10件 (11. 2%)

イ 建物火災 (50件) を原因別にみると以下のとおりである。

こんろ (天ぷら油の過熱等)	13件 (26. 0%)
放火 (疑い5件を含む)	11件 (22. 0%)
たばこ	5件 (10. 0%)
電灯・電話等の配線	4件 (8. 0%)
ストーブ	3件 (6. 0%)
火遊び	1件 (2. 0%)
たき火	1件 (2. 0%)
排気管	1件 (2. 0%)
灯火	1件 (2. 0%)
電気機器	1件 (2. 0%)
配線器具	1件 (2. 0%)
溶接機・切断機	1件 (2. 0%)
不明	1件 (2. 0%)
その他	6件 (12. 0%)

(7) まとめ

☆ 地域住民等に対して防火意識の高揚を図り、より一層の火災予防に取り組む必要がある。

平成23年中の火災は、89件で前年の101件に比べ12件減少している。半数以上を占める建物火災については、50件で前年と同件数であるが、焼損棟数、り災世帯数、り災人員、焼損面積共に前年から減少し、損害額についても大幅に減少している。

また、火災による死者は前年の6人から2人になり、いずれも住宅火災での犠牲者である。

出火原因については、1位が「放火 (疑い含む)」、2位が「こんろ (天ぷら油の過熱等)」、3位が「たばこ」、4位が「火あそび」と、前年同様の出火原因が上位を占めている。

今後、放火犯罪撲滅のため警察との連携、協力体制の強化を行うとともに、各自治会住民一人ひとりが日頃から建物周辺に可燃物等燃えやすいものを放置しない、放置させない地域環境と地域内での監視体制の強化等放火されにくい環境づくりを防火講演、消防訓練等とおして積極的に推進するとともに、住宅用火災警報器の設置推進を図り、さらなる防火意識の高揚を図る必要がある。

平成23年火災概要（対前年比）

区 分	単位	平成23年 (A)	平成22年 (B)	増減 (C) (A)-(B)	増減率 (%) (C) / (B) ×100		
出火件数		89	101	△12	△11.9		
建物火災		50	50	0	0		
林野火災	件	3	3	0	0		
車両火災		12	10	2	20		
その他の火災		24	38	△14	△36.8		
焼損棟数		70	77	△7	△9.1		
全 焼		9	9	0	0		
半 焼	棟	3	2	1	50		
部分焼		17	14	3	21.4		
ぼ や		41	52	△11	△21.2		
焼 損 面 積	建 物	床面積	m ²	1,144	1,407	△263	△18.7
		表面積	m ²	281	197	84	42.6
		林 野	a	13	2	11	550
死者	人	2	6	△4	△66.7		
負傷者	人	20	25	△5	△20		
り災世帯		51	78	△27	△34.6		
全 損	世帯	8	13	△5	△38.5		
半 損		8	13	△5	△38.5		
小 損		35	52	△17	△32.7		
り災人員	人	128	196	△68	△34.7		
損害額		61,733	222,002	△160,269	△72.2		
建物		55,887	217,382	△161,495	△74.3		
林野	千円	0	0	0	0		
車両		5,404	2,060	3,344	162.3		
その他		442	2,560	△2,118	△82.7		
出火率	件	2.5	2.8	△0.3	△10.7		
年	平成23年		平成22年				
主な火災原因	1	放火（疑い含む）	26件	1	放火（疑い含む）	24件	
	2	こんろ	13件	2	たばこ	12件	
	3	たばこ	10件	2	こんろ	12件	
	4	火あそび	5件	4	火あそび	10件	
	5	電灯・電話等の配線	4件	5	たき火	8件	
	5	たき火	4件				

（※損害額については確定数値ではありません。）

過去5年間の火災状況

区分		年別	19年	20年	21年	22年	23年
火災件数			124	116	103	101	89
内 訳	建 物		77	70	53	50	50
	林 野		2	1	3	3	3
	車 両		8	7	7	10	12
	その他		37	38	40	38	24
	爆発（再掲）						
焼損棟数（棟）			99	78	65	77	70
内 訳	全 焼		6	4	4	9	9
	半 焼		6	3	1	2	3
	部分焼		29	11	17	14	17
	ぼ や		58	60	43	52	41
焼 損 面 積	建 物	床面積（㎡）	1,617	568	581	1,407	1,144
		表面積（㎡）	231	143	148	197	281
	林 野（a）			15	10	31	2
り災世帯（世帯）			92	59	54	78	51
内 訳	全 損		14	8	8	13	8
	半 損		5	2	5	13	8
	小 損		73	49	41	52	35
り災人員（人）			234	141	124	196	128
損 害 額（千円）			295,663	40,983	70,355	222,002	61,733
内 訳	建 物		277,540	39,700	59,963	217,382	55,887
	林 野		0	0	0	0	0
	車 両		14,873	1,138	9,132	2,060	5,404
	その他		3,250	145	1,260	2,560	442
死 者	48時間（人）		3	2	0	6	2
	30日（人）		0	0	0	0	0
負 傷 者（人）			22	21	21	25	20
覚 知 別 件 数			124	116	103	101	89
内 訳	火災報知専用電話（119）		84	68	57	56	58
	加 入 電 話		4	4	3	1	3
	警 察 電 話		3	6	10	2	3
	事 後 聞 知		33	34	33	38	23
	そ の 他		0	4	0	4	2

（※平成23年の損害額については、確定数値ではありません。）

2 救 急

(1) 救急出場件数

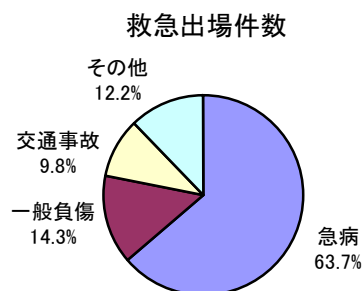
◎ 出場件数は増加

平成23年中の救急出場件数は17,169件で前年16,615件に比べ554件(3.3%)増加した。

また、1日平均にすると約47件、約31分に1回の割合で出場したことになる。

出場件数を事故種別毎にみると、第1位が急病で10,941件(63.7%)、第2位が一般負傷2,453件(14.3%)、第3位が交通事故1,680件(9.8%)の順となっている。(右図参照)

そのうち、特別救急隊の出場件数は440件であった。



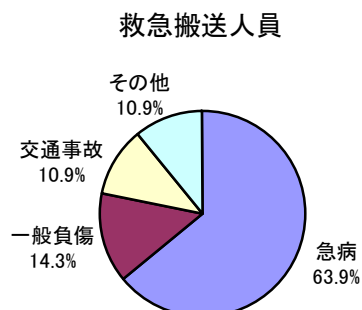
(2) 救急搬送人員

◎ 搬送人員は増加

平成23年中の搬送人員は15,510人で、前年15,073人に比べ437人(2.9%)増加した。

また、1日平均約42人、市民の約23人に1人が救急車で医療機関へ搬送されたことになる。

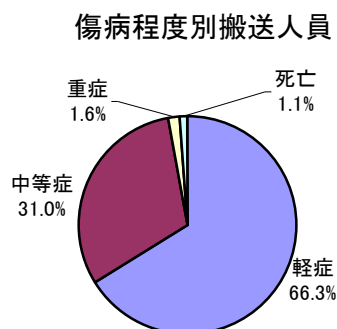
搬送人員を事故種別毎にみると、第1位が急病で9,909人(63.9%)、第2位が一般負傷2,215人(14.3%)、第3位が交通事故1,696人(10.9%)の順となっている。(右図参照)



(3) 傷病程度別搬送人員

◎ 軽症患者は10,275人

平成23年中の搬送人員15,510人を傷病程度別にみると、軽症(傷病の程度が入院加療を要しない)が10,275人(66.3%)で最も多く、次いで中等症(傷病の程度が重症又は軽症以外のもの)が4,813人(31.0%)、重症(傷病の程度が3週間以上の入院加療を要するもの)が255人(1.6%)、死亡(初診時において死亡が確認されたもの)が167人(1.1%)の順となっている。(右図参照)



(4) まとめ

◎ 応急手当普及啓発と救急車の正しい使い方をPR

平成23年中の高槻市における救急活動は、前年と比較すると、出場件数・搬送人員ともに増加となった。

搬送人員を傷病程度別にみると、依然として軽症患者が多く、全搬送人員の66.3%を占めており、全国平均の50.4%(平成22年中)に比べ高い割合を示している。

このことから日常的に、更には「救急の日」等の諸行事、救命講習会・各広報媒体を通じて、応急手当普及啓発と救急車の正しい利用について、市民の方に周知徹底を図る必要がある。

救急概要（対前年比）

区分 事故種別		出場件数(件)			搬送人員(人)		
		23 年	22 年	増 減	23 年	22 年	増 減
合 計		17,169	16,615	554	15,510	15,073	437
火 災		66	57	9	22	29	△ 7
自然災害		0	0	0	0	0	0
水 難		9	6	3	1	3	△ 2
交 通		1,680	1,713	△ 33	1,696	1,768	△ 72
労働災害		100	83	17	95	80	15
運動競技		89	82	7	89	82	7
一般負傷		2,453	2,361	92	2,215	2,175	40
加 害		136	122	14	120	107	13
自損行為		222	248	△ 26	121	153	△ 32
急 病		10,941	10,400	541	9,909	9,349	560
そ の 他	転院搬送	1,243	1,323	△ 80	1,237	1,317	△ 80
	医師搬送	0	0	0	0	0	0
	資器材搬送	0	0	0	0	0	0
	その他	230	220	10	5	10	△ 5

3 救助

	火災	交通事故	水難事故	自然災害事故	機械による事故	建物等による事故	ガス及び酸欠事故	その他	合計
出動件数(件)	11	27	13	0	3	64	4	107	229
活動件数(件)	11	9	11	0	2	45	3	34	115
救助人員(人)	5	9	5	0	2	37	2	20	80

4 その他

(1) 警戒・支援出場等

区分	件数	警戒・支援等の内容
予防出場	20件	火災危険のあるもの（危険物・ガス漏洩等）
誤虚報出場	35件	火災出場したが結果誤虚報であったもの
支援出場	328件	救急等の支援活動
その他出場	324件	上記以外（怪煙調査・エンジンオイル漏洩等）
合計	707件	

(2) 応援出場

応援先	件数	応援出場の内容
茨木市	7件	救急出場・予防出場・その他出場
島本町	19件	救急出場（特別救急隊出場10件）
京都市	9件	救急出場
岩手県	1件	緊急消防援助隊（東日本大震災）
合計	36件	

※ 表中の△印は減少もしくは負数を表す